

A J-shaped association between serum uric acid levels and poor renal survival in female patients with IgA nephropathy

松隈, 祐太

<https://hdl.handle.net/2324/1931803>

出版情報 : Kyushu University, 2017, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	松隈 祐太				
論文名	A J-shaped association between serum uric acid levels and poor renal survival in female patients with IgA nephropathy				
論文調査委員	主査	九州大学	教授	江藤 正俊	
	副査	九州大学	教授	鴨打 正浩	
	副査	九州大学	教授	小田 義直	

論文審査の結果の要旨

近年、高尿酸血症のみならず低尿酸血症も、急性腎障害や慢性腎臓病（CKD）の発症に対するのと同様に、心血管病の危険因子であることが明らかにされている。しかし、CKDの進展に低尿酸血症が与える影響については明らかではない。今回著者らは、CKDの最も多い原因のひとつであるIgA腎症の患者を対象に、血清尿酸値とCKDの進展との関係について検討した。1979年10月から2010年12月の間に腎生検でIgA腎症と診断された1218名の患者を後ろ向きに調査した。対象患者は、血清尿酸値によって3群に分けた。低値（L）群、中等値（M）群、高値（H）群とし、男性においては、 <6.1 、 $6.1-7.0$ 、および >7.0 mg/dL、女性においては、 <4.4 、 $4.4-5.3$ 、および >5.3 mg/dLとした。末期腎不全への進展の評価に、Coxの比例ハザードモデルを用いた。観察期間（中央値5.1年間）の間に、142名（11.7%）が末期腎不全に至った。男女ごとの、M群に対する末期腎不全のハザード比 [95%信頼区間]は、男性では、L群 1.18 [0.55-2.54]、M群 1.00 [対照]、H群 1.80 [1.01-3.10]、女性では、L群 2.73 [1.10-6.76]、M群 1.00 [対照]、H群 2.49 [1.16-5.34] であり、いずれもJカーブ現象を示した。女性においては、高尿酸血症のみならず、低尿酸血症も末期腎不全発症の独立した危険因子であった。この結果より、IgA腎症患者において血清尿酸値は末期腎不全とJ型の相関関係を有し、特に女性において顕著であることが示唆された。

本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。